

# 香川大学防災フェスタ 2017 「みんなで防災」

代表者 松村圭悟（法学部法学科 4 年）

## 1. 目的と概要

このプログラムは、香川大学祭において、防災啓発イベントを実施し、香川大学祭への地域住民の方々の参加を促すことで香川大学祭を盛り上げるとともに、来場者の防災意識の向上を目的としました。香川大学祭期間中の 11 月 5 日（津波防災の日）に、オリーブスクエア 2 階多目的ホールにて、避難所体験や防災工作、非常食試食、非常持出袋の展示を実施しました。また、これまで私たち香川大学学生防災士クラブが取り組んできている地域の防災訓練への参加や被災地での災害ボランティア活動など学生防災活動に関する写真展示や参加者による報告会を行い、香川大学生による学生防災活動の発信を目指しました。

## 2. 実施期間（実施日）

平成 29 年 4 月 1 日から 平成 30 年 3 月 31 日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプログラムは、11 月 5 日（津波防災の日）に、オリーブスクエア 2 階多目的ホールにて、各種防災啓発展示・防災体験を実施しました。以下では、各ブースの内容説明を行います。①非常食試食ブースでは、市販の乾パンなどの非常食やアルファ米の体験と試食・提供を行いました。②避難所体験ブースでは、段ボールベッドやパーティションにより、避難所における生活の質の向上ができることを、被災地で実際に活用された写真とともに展示し、参加者の方には段ボールベッド等の体験を行いました。また、香川大学総務グループのご協力をいただき、香川大学災害用備蓄品の一部の展示を行いました。加えて、市販の仮設トイレとともに、手作りの段ボールトイレや段ボールで作成した更衣室など、身近なもので代用した工夫・アイデアなども展示しました。③防災啓発展示ブースでは、幸町キャンパス周辺の防災マップに学生防災士のコメントを加えた掲示物の展示や「かがわ防災 GIS」を実際に操作できるように展示用のパソコンを設置し来場者の方に体験してもらうように工夫しました。また、女性用、子供用、ペット用など様々なケースに合わせた各種非常持出袋・備蓄品を展示し、学生防災士がそれぞれなぜ必要なのかなどコメントを付け加え解説をしました。④外国人ブースは、学生団

体ハラリシの協力を得て、ハラル対応非常食についての掲示や、日本の自然災害に関する掲示を行いました。⑤防災工作ブースでは、「紙ぶるる」という筋交いの重要性や耐震性について学ぶことができる防災工作キットや、新聞紙を用いて紙スリッパを作り、発災時のガラス等が飛散する中、避難する過程で足の保護の重要性を学ぶことができる体験を実施しました。

当日は、学生防災活動報告会として、これまで地域防災訓練参加等の学生防災活動や平成29年台風被害における多度津町での災害ボランティア活動・熊本地震災害ボランティア活動参加者による活動報告など、実際に活動を行った学生防災士が思い、考えたことを直接、来場者の皆様に伝える機会も設けました。



① 非常食試食ブース



② 避難所体験ブース



③ 防災啓発展示ブース



③ 非常持出袋・備蓄品の展示



④ 外国人ブース

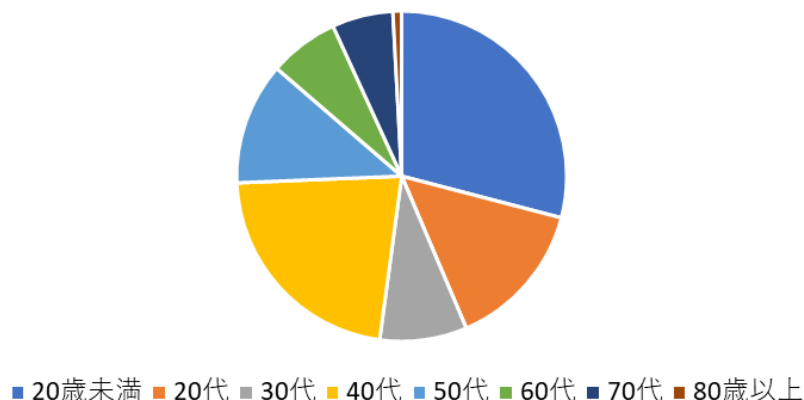


⑤ 防災工作ブース「紙ぶるる」

また、このプログラムは、大学祭期間中の防災啓発イベントであったため、事前の広報を積極的に行いました。学外向けの広報として、香川大学幸町キャンパス近隣の小学校への児童向けパンフレットの配布、近隣地域住民へのパンフレットの配布、地域防災関係者へのパンフレットの配布などを実施しました。学内向けの広報としては、学内におけるパンフレットの掲示、国際グループを通じて留学生向け英語版パンフレットの掲示、広報室を通じて香川大学公式 Facebook でのイベントの告知などを行いました。

最終的に、当日は100名を超える方が来場されました。来場者は、地域住民の方と小学生と保護者で参加された方が多かったというのが特徴だと思います。来場者へのアンケートでは、各ブースおおむね満足していただける結果となり、香川大学祭において防災啓発イベントを開催することにより香川大学祭を盛り上げるという当初の目的は達成できたといえます。

「みんなで防災」来場者の年齢割合



#### 4. このプログラムが本学や地域社会等に与えた影響

このプログラムを実施したことにより、香川大学祭への地域住民や小学生および保護者などの参加を促すことができたといえます。また、地域住民の方や学内外の関係者の皆様に対し、香川大学学生防災士クラブが、これまで、どのような取り組みを行っているかということ伝えることができました。また、来場者の皆様が本イベントを通じ、南海トラフ巨大地震に対する備えなど防災意識を向上させることができたと思います。

また、このプログラムは香川大学内に対しても、影響をあたえることができました。これまで、香川大学学生防災士クラブは、学外や工学部キャンパスでの活動が中心であったため、幸町キャンパスにおける活動が不足し、関係部署とのつながりがあまりありませんでした。しかし、準備段階から学内のさまざまな関係部署と調整をするなかで、学内における香川大学学生防災士クラブの認知度を上げ、関係者の間で顔の見える関係を築くことができました。これは、発災時において学生防災士が機能別消防団員として活動する上で、幸町南キャンパス経済体育館に避難所が設置された場合の実効性を高める影響があったといえます。



## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

これまでの香川大学学生防災士クラブの活動は、防災関係機関や自主防災組織が企画・実施する地域防災訓練への参加など、イベントへの参加が多く、香川大学学生防災士クラブ自らがイベントの企画を立案・準備・実施まで主体的に行うことは、ほとんどありませんでした。しかし、今回のイベントは、香川大学幸町キャンパスにおいて、香川大学学生防災士クラブが企画の立案・準備・実施まですべてを学生主体で行った初めての事例でありました。今回のプログラムを通じて、イベントに関わった学生防災士は、企画を実現するノウハウ等の組織運営に関するスキルアップの向上と学生が主体的に行動することの重要性を再認識することができたといえる。



## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

このプロジェクトの実施に当たっての反省点としては、香川大学祭での防災啓発イベントであり、学生防災士の多くが他部活・サークルの掛け持ちをしているため、当初の想定よりも当日の運営側の人員の確保が困難であったことがあげられる。そのため、今後は、香川大学学生防災士クラブのメンバーを確保し、今回のような防災啓発イベントをより円滑に実施できるような組織体制の強化が課題である。

今後の抱負としては、これまで同様に、地域社会における学生防災活動を継続しつつ、香川大学学内における活動にも取り組みたいと考えている。プロジェクトを通じて、南海トラフ巨大地震など大規模災害の発生に備えて、学生防災士クラブ自体の組織体制の強化や学生防災士の能力の向上などが不可欠であると感じている。今後も香川大学の関係部署と協力していきながら、より実効性のある香川大学学生防災士クラブとしていく必要があると思います。

## 7. 実施メンバー

代表者 松村 圭悟 (法学部4年)

構成員	酒井 善紀	(医学部5年)	岡崎 和希	(法学部4年)
	笹木 遼	(法学部4年)	山本 凜太郎	(法学部4年)
	秋山 実帆	(工学部4年)	穴吹 玲菜	(工学部4年)
	澁谷 理佐	(工学部4年)	田名網 毬乃	(工学部4年)
	松田 明子	(工学部4年)	谷 淳弘	(工学部4年)
	間嶋 悠人	(農学部4年)	加藤 真也	(農学部4年)
	片山 健太	(経済学部3年)	足立 夏海	(工学部3年)
	川合 大地	(工学部3年)	栃木 沙綾	(工学部3年)
	網野 優果	(工学部3年)	渡邊 幸太郎	(工学部3年)
	藤本 将太	(工学部3年)	松本 貴博	(工学部3年)
	萱原 正隆	(農学部3年)	岩部 智花	(法学部2年)
	岡田 真実	(法学部2年)	冨永 真布	(法学部2年)
	福田 麻紀	(法学部2年)	今岡 優介	(教育学部2年)
	西岡 葵	(教育学部2年)	山田 絵理奈	(教育学部2年)
	渡邊 慎吾	(教育学部2年)	柴尾 葵	(工学部2年)
	高橋 葵	(工学部2年)	藤本 紗帆	(工学部2年)
	古川 千晴	(工学部2年)	南 琴実	(工学部2年)
	伏見 和真	(工学部2年)		

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額	397,000円
執行経費（品目等）	金額(円)
長期保存用ビسケット 外	38,142
組立式振動模型 紙ぶるる（100枚） 1セット	8,640
APPC AIK-001PPC用紙A4 500枚	2,265
差し込み式ゼッケンベスト SK-BIB(赤10) 外	123,471
ゴミ袋 20L（10枚入り） シモジマ 6604780 外	29,551
標識ロープ（軽量） ユタカメイク Y9#-20 外	36,287
ハイマッキー 8色 ゼブラ MC8C 外	36,461
避難所設営シールセット	30,240
APPC AIK-001PPC用紙A4 500枚入	2,265
録音機能ハンドメガホン Y01HMR05WH 外	55,126
インクカートリッジ Brother LC111-4PK	3,693
印刷代	4,854
合計	370,995